

千代 一百首 一人首

子端

關 正

增補目錄

和歌三神之圖	古今六歌仙并圖
孝弟忠信圖	百人一首讀法
三夕畫圖并歌	百人一首略解抄
女今川姬小松	七夕和歌集
婦人教訓歌	小笠原流抄形
婚禮座配指南	五姓名之字盡
尼之名字盡	男女振姓之事
二十六哥仙圖	衣折飭樣圖
十二支子守中尊	知死期操樣事
不成就日之事	願成就日事

和哥三神圖

左柿本入廣

不の...
 中玉津嶋
 右山...
 石山...
 中玉津嶋
 右山...
 石山...



文彦康秀



吹雪に
秋の葉の
ありまを
ひらくを



我ら
のち
のち
のち



野小町
のち
のち
のち

孝

孝の者なり
はるかに
とらぬを
かたじけなく
おぼしむる
こと其の
中にも
女は嫁して
男の
妹は嫁して
男の
を分る

弟

弟の者なり
女は嫁して
男の
妹は嫁して
男の
を分る



在原業平



月を
あつ
のち
のち



何と
あつ
のち
のち



見
のち
のち
のち

忠

忠の者なり
女は嫁して
男の
妹は嫁して
男の
を分る

信

信の者なり
女は嫁して
男の
妹は嫁して
男の
を分る



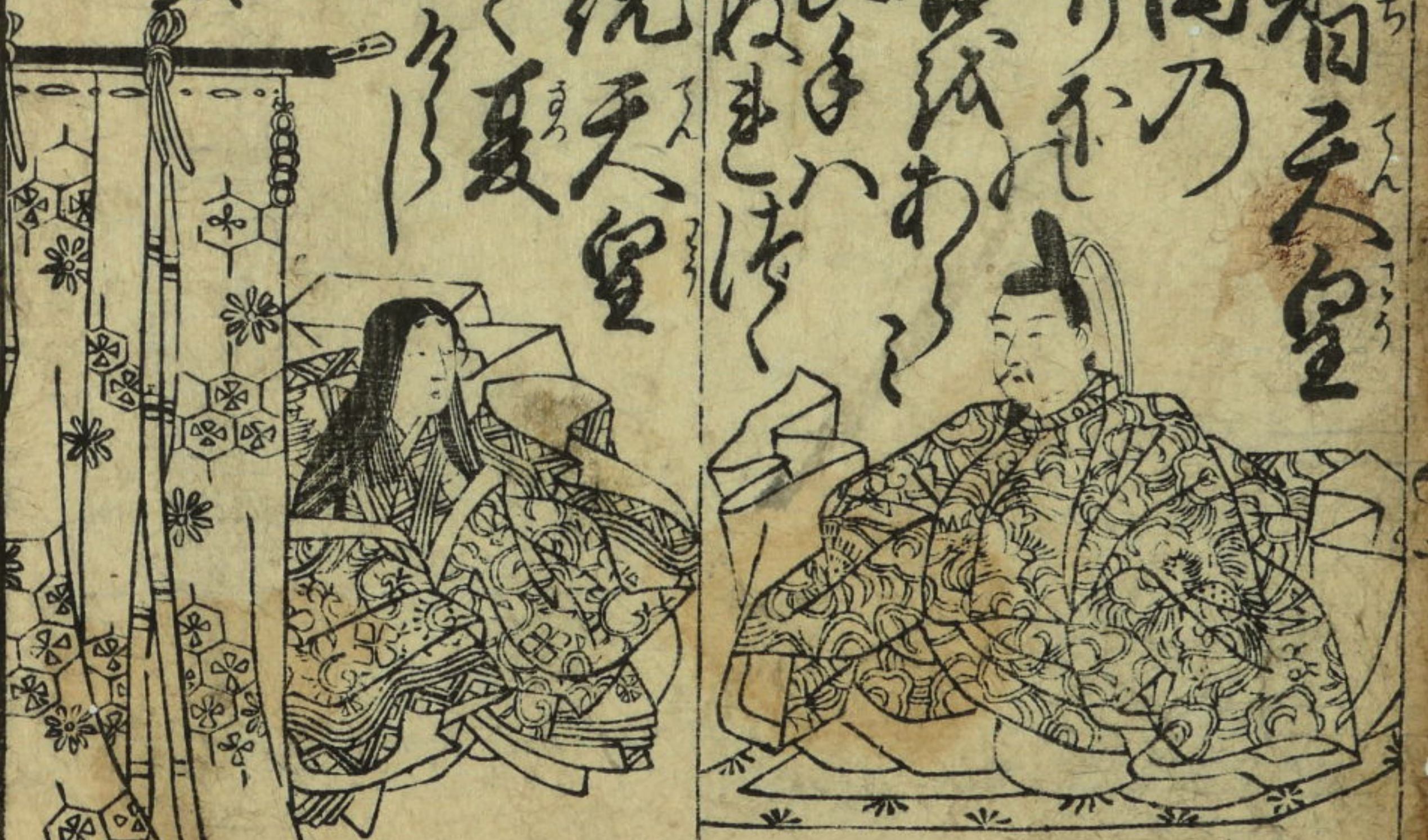


百人一首よきを
 百人一首よきを
 天智天皇
 持統天皇
 文室
 坂上
 深養父

わ
 柿
 赤人
 田
 赤人
 乃
 乃
 乃



天智天皇
 秋の田乃
 春の天皇
 乃
 乃
 乃



文室の康す

赤條 ちりべー

中納言 ちりべー

行書 ちりべー

崇徳院 ちりべー

ちりべー

ちりべー

ちりべー

ちりべー

ちりべー

ちりべー

ちりべー

徳丸を

奥の

な

な

な

中納言家持

の

の

の

の

の

安陪仲磨

の

の

の

の

の

の

の

の

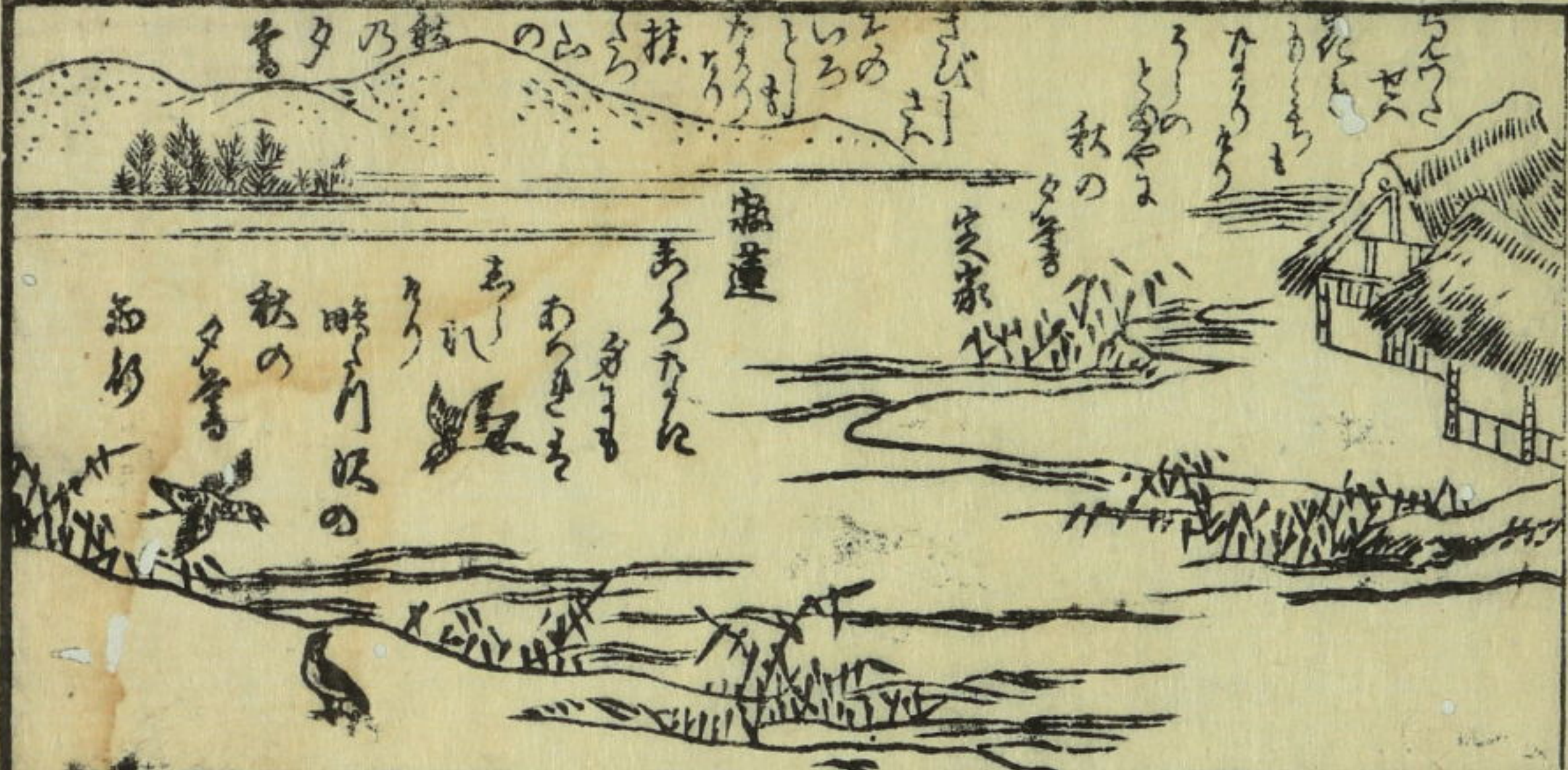
の

の

の



三夕園美和歌



百人一首略解抄
我衣をよみ 他をいさなり
ふきのこ 穂乃こもなり
かきまき 穂乃こもなり
ふりしつを 穂乃こもなり
あそびまむ 穂乃こもなり
うらなまを 穂乃こもなり
乙女けまご 穂乃こもなり
りどまき 穂乃こもなり
まのすけのり 穂乃こもなり
よるまは 穂乃こもなり
なが月ハ 穂乃こもなり
むら風とん 穂乃こもなり
ちんばのこま 穂乃こもなり
わさるまを 穂乃こもなり
つとまを 穂乃こもなり

小野小町
花の宮に
うらなれ
我身よふか
なごらむらまふ



蝉丸
あまやこの行も
りうねも
あはれ神てん
わささうの笑



和歌の
い十時
らたぬと
人なつをよる舟



僧正遍昭
吹とらりよし女れ
あはれ



万幸おはせしむと
 一人の中をを全人の熱
 一室の心をを燃や
 一ひまの心をくしめし
 一ついでにぐるまきとて
 一きりきりきりきりきり
 一人の心ををわけて我に
 一室の心をを燃や
 一ひまの心をくしめし
 一ついでにぐるまきとて
 一きりきりきりきりきり
 一人の心ををわけて我に

礼の事
 右の條はのよふ
 一かかすとのふたを
 一りてはしむまきと
 一先教とちるまきと
 一或はねらるゝふいふ
 一その乃事
 一下人の若忠を各と
 一男姑ふそまのし
 一人の後と洋たる
 一はこふねらるゝふ
 一して他人ののさ
 一とびる事

素性法師
 今あじと
 一ひまの心をくしめし
 一ついでにぐるまきとて
 一きりきりきりきりきり
 一人の心ををわけて我に



吹に秋の
 文屋齋秀
 一ひまの心をくしめし
 一ついでにぐるまきとて
 一きりきりきりきりきり
 一人の心ををわけて我に



大江千里
 月又秋はらふ
 物
 一ひまの心をくしめし
 一ついでにぐるまきとて
 一きりきりきりきりきり
 一人の心ををわけて我に



菅家
 六のきい
 ぬさ
 一ひまの心をくしめし
 一ついでにぐるまきとて
 一きりきりきりきりきり
 一人の心ををわけて我に



あつてもなき世にあり年暮
あつてもなき世にあり年暮
あつてもなき世にあり年暮



一男はつる大熊子を見た
一男はつる大熊子を見た
一男はつる大熊子を見た

あつてもなき世にあり年暮
あつてもなき世にあり年暮
あつてもなき世にあり年暮

三條右大臣
名おのち
わささるふの
しほねうぐの
あつてもなき世にあり年暮

貞信公
小倉ふ
あつてもなき世にあり年暮

中納言
あつてもなき世にあり年暮

源宗平朝臣
あつてもなき世にあり年暮



下りしついで実なる
 かなきまをさめく結
 家を流る女ハ高き
 ことをあのむかし中
 るあんなら若衆を
 ありあふなきハ其人の
 ありむきまをさめく
 ういふまをさめく
 あれははやくさめく
 きまのなりおとぼけ
 女とわさしはくはく
 下りしついで実なる
 をわさしはくはく
 ういふまをさめく
 あれははやくさめく
 きまのなりおとぼけ
 女とわさしはくはく
 下りしついで実なる
 をわさしはくはく
 ういふまをさめく
 あれははやくさめく
 きまのなりおとぼけ
 女とわさしはくはく



若人ありあつむ
 あく人とかつむ
 いけさきより乃
 まるるべし男子
 原とより身を脩
 る成なりりむ
 ありむきまをさめく
 てハ学あつむ
 いあふ女乃はあ

九河也新恒
 心あくふ
 おくまや
 杉ん神象の
 を死すりける
 志くきくれむ



有能のほき
 志生忠岑
 あくま
 あつむさめく
 うきおれ



坂上足則
 月やみれ
 よしね
 おくま



春道列樹
 山河は風の
 ひけさめく
 あくま
 のいぬのみらり

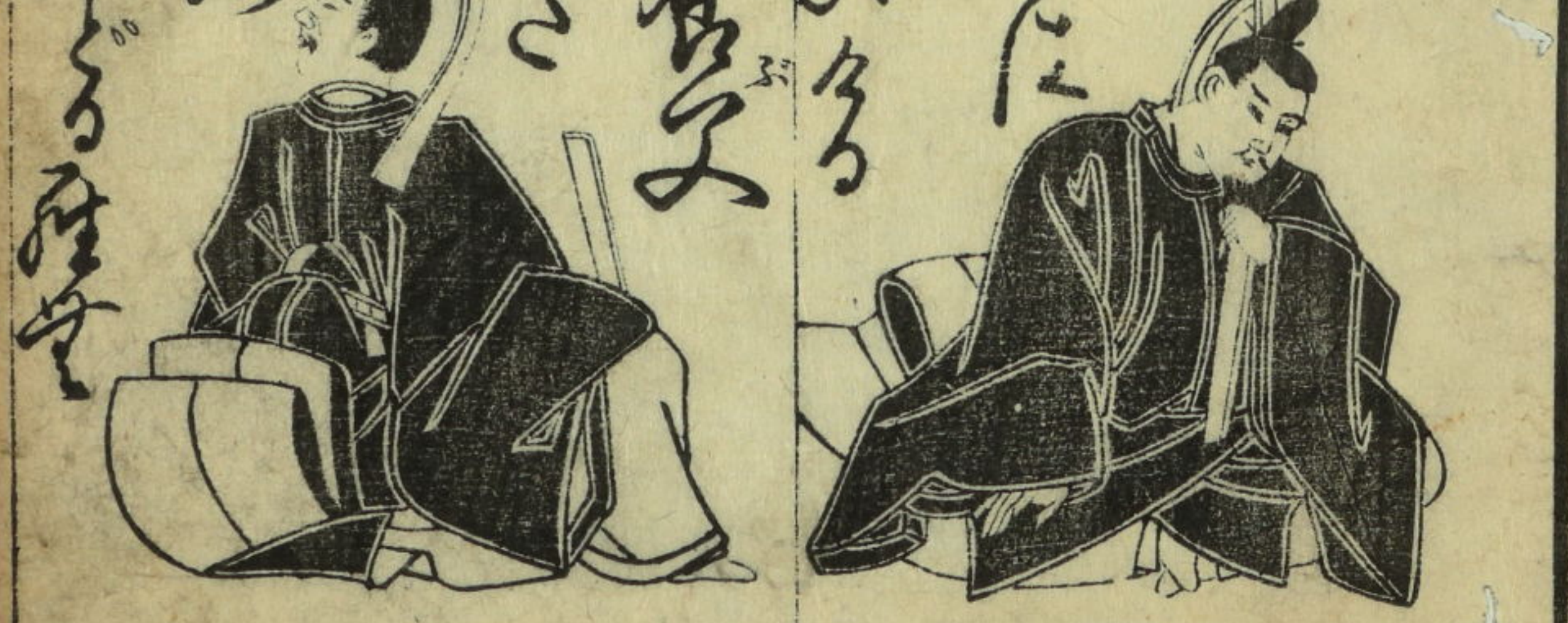


孝のそけとて身一
 まり母のてに白粉を
 ざり髪をちと梳き
 のもてわのゆきを
 挿しとまる人すれなり
 こころごとくあふむさ
 りとてたてははぐり
 けりてふりもほら
 たりとて邪なれは富
 としよもあつたに
 うとまれぬべし物
 てころを要をまん
 と思はあつたのころ
 とやわつたをわが
 ない舌にわたり
 せりく短髪なす
 けりてかきざり



ともむぎかきし
 しはまたりり
 にけりきあふたり
 他人の家
 姑あつたあつた
 ちほののり
 ちあふりく乃内たれ

人といさむ
 あつとて母
 花とて
 清涼涼養
 夏の秋
 明なるを
 いつと月

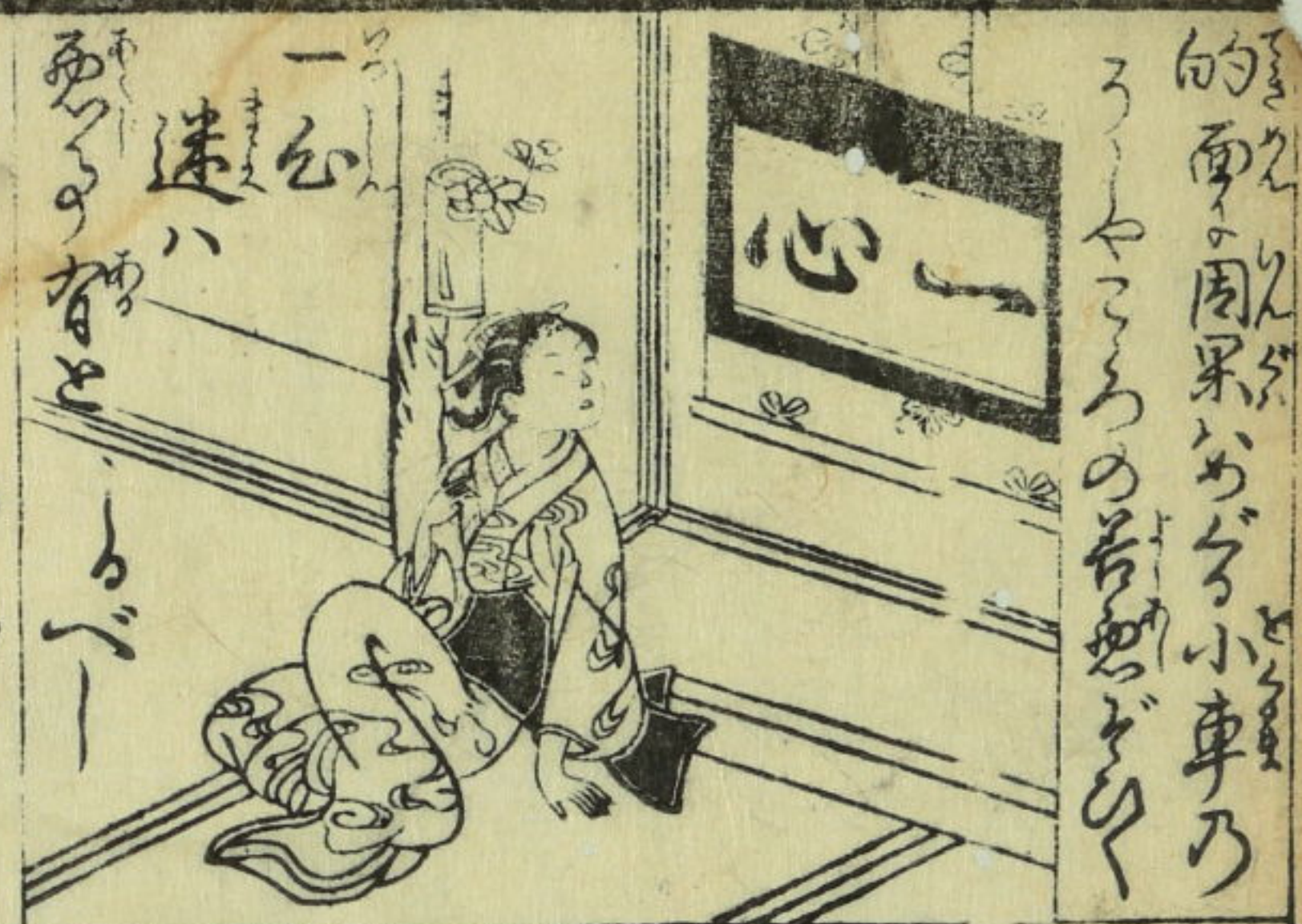


紀友別
 久さ乃ひかり
 のあき
 去れ
 友系舞風
 高砂の
 松もひらけ





七夕歌はくし



的の因果が小車乃
ろくやこらの昔戀ぞく

去るべし人をさつふ
事日月乃若木玉
おとと照くしこまふ
こゝろをさめざしそ
人にほひかへはなき
来たり

あさちぬの
をわ
志のあれど人の
何まりてきう人の
あひ

衆議等

平愈盛

あはれぞ
およかりが
おやゆのあひ
人のさか

又屋朝康
あはれぬ風乃
ふきし秋の
了ぬき
とち男もて教る

吉迎

あはれぬ
人のあひ
にほひかへ

やうしふ事なはされとせあ
 める衆のくんとすくれうなる
 てれ川ていん事衆のゆ未と
 可代あもくく成衆あん
 一もをひて夜とあて七夕の
 わひんて秋のうらりるたか
 天乃川かうり内とこあて
 は色の重衆ゆりもあ
 余中てもはゆりもあて七夕の
 ああ夜乃やとあかへんて
 たかをはてうのさちわいん
 はらうてあ乃夕たれの衆
 杖をて海乃いんあてたう
 衆へんあわさ乃川て
 七夕のこのあていんあ
 人たむくにかもあては

士生忠見
 忠見とてふ
 まどき
 立まかり
 人しほまう
清原元輔
 元輔
 神とあかり
 ともあのみ
 こはり



七夕のほかそらてあゆまきとせ
 かつはまき衆のあへんあ
 天の河は衆まきかあて
 うていんあかきあて
 いんてあゆまきあて七夕の
 天の河は衆まきかあて
 うていんあかきあて
 いんてあゆまきあて七夕の

中納言朝忠
 朝忠
 わいんての
 後れいん
 うていんあ
 のあかり
中納言朝忠
 朝忠
 わいんての
 後れいん
 うていんあ
 のあかり



ようはよふもあそびのきをよ
 ゆらわりのやいそはうすを
 うまのほきうらのやを七夕を
 うとうらうものうらつれを
 せふそこのむろくすもせり候
 せふゆくそくをうらうらる
 七夕のゆらけつわてぬきま
 うらうらうらうらうらうら
 秋をゆきまうらうらうら
 うらうらうらうらうらうら
 かしらうらうらうらうらうら
 わらうらうらうらうらうら
 思ふうけうらうらうらうら
 たうらうらうらうらうら
 秋の秋うらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうら

謙徳公
 人々
 身のい
 かりぬ



勇祿好忠
 家人
 ひら
 ありぬ



たかこの天ろはあかき
 うらぬちきりやわらわ
 秋とあをさうてわ天ろ
 うらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうら

直冬法師
 宿の
 人々



風を
 先
 を
 かけ

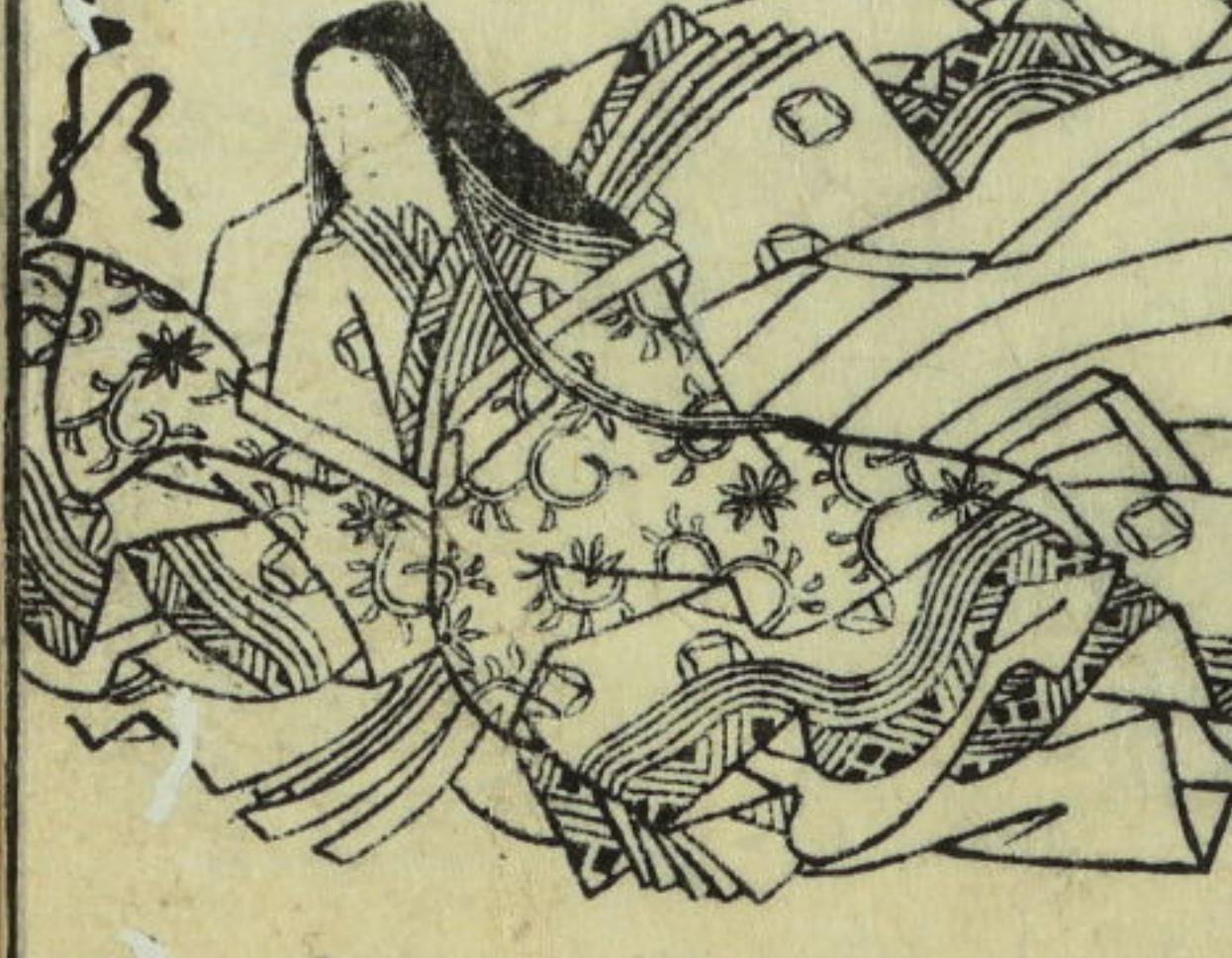
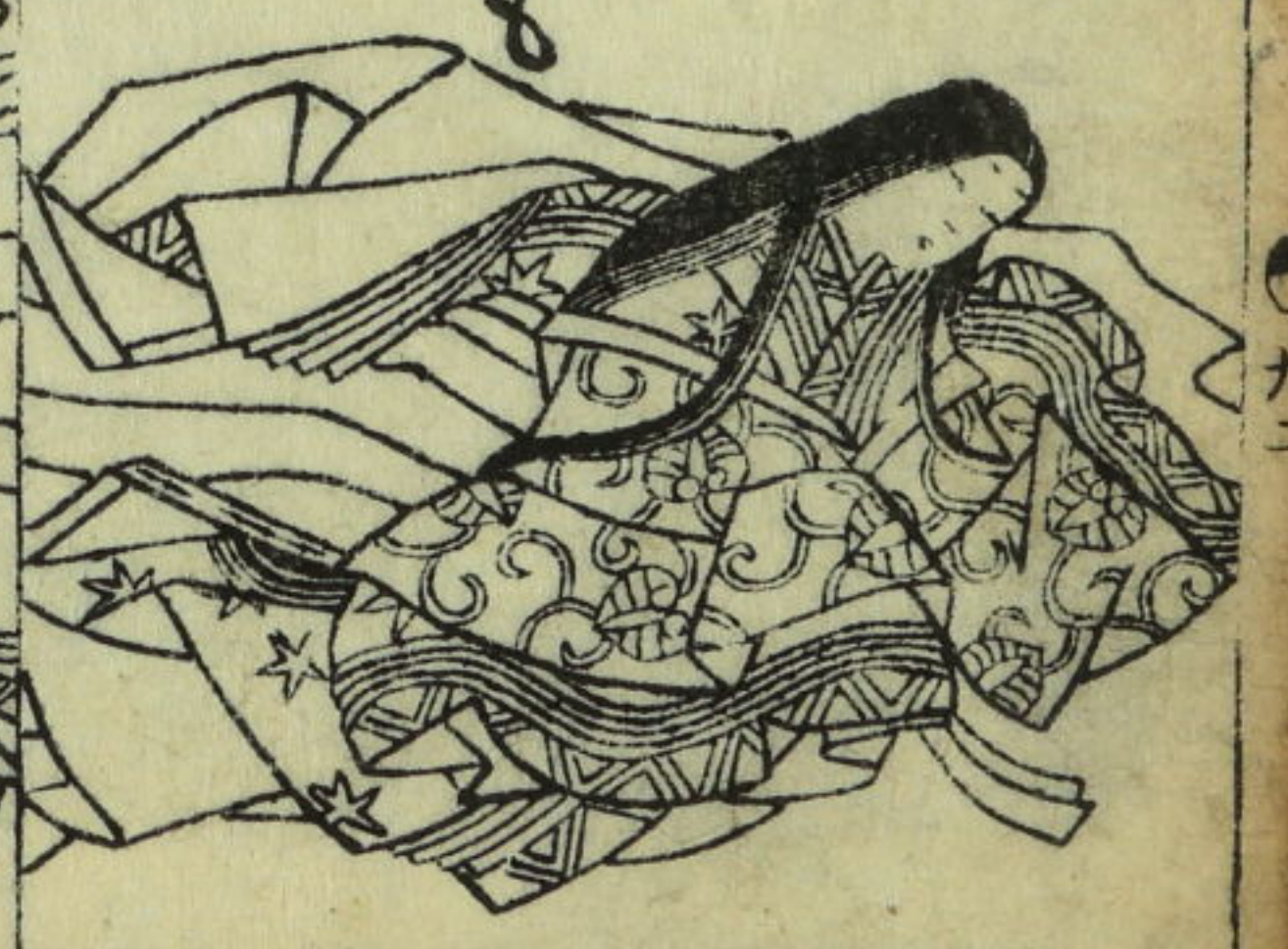


○益の次第

武二秋のこちうはよもむと
 小すもろくまを推すは
 出まうにさむらうの
 て女てうのあまの
 まへてさるの
 けりてうのあまの
 ありねんか
 くのしん
 くるて
 この
 入て
 の
 見も
 たり
 動
 た
 け
 う
 だ
 ん

紫式部

わさうわひて
 みやうま
 うま
 夜半の月か
 大式三位
 有るふ家の
 風あま
 ぐさ
 ます



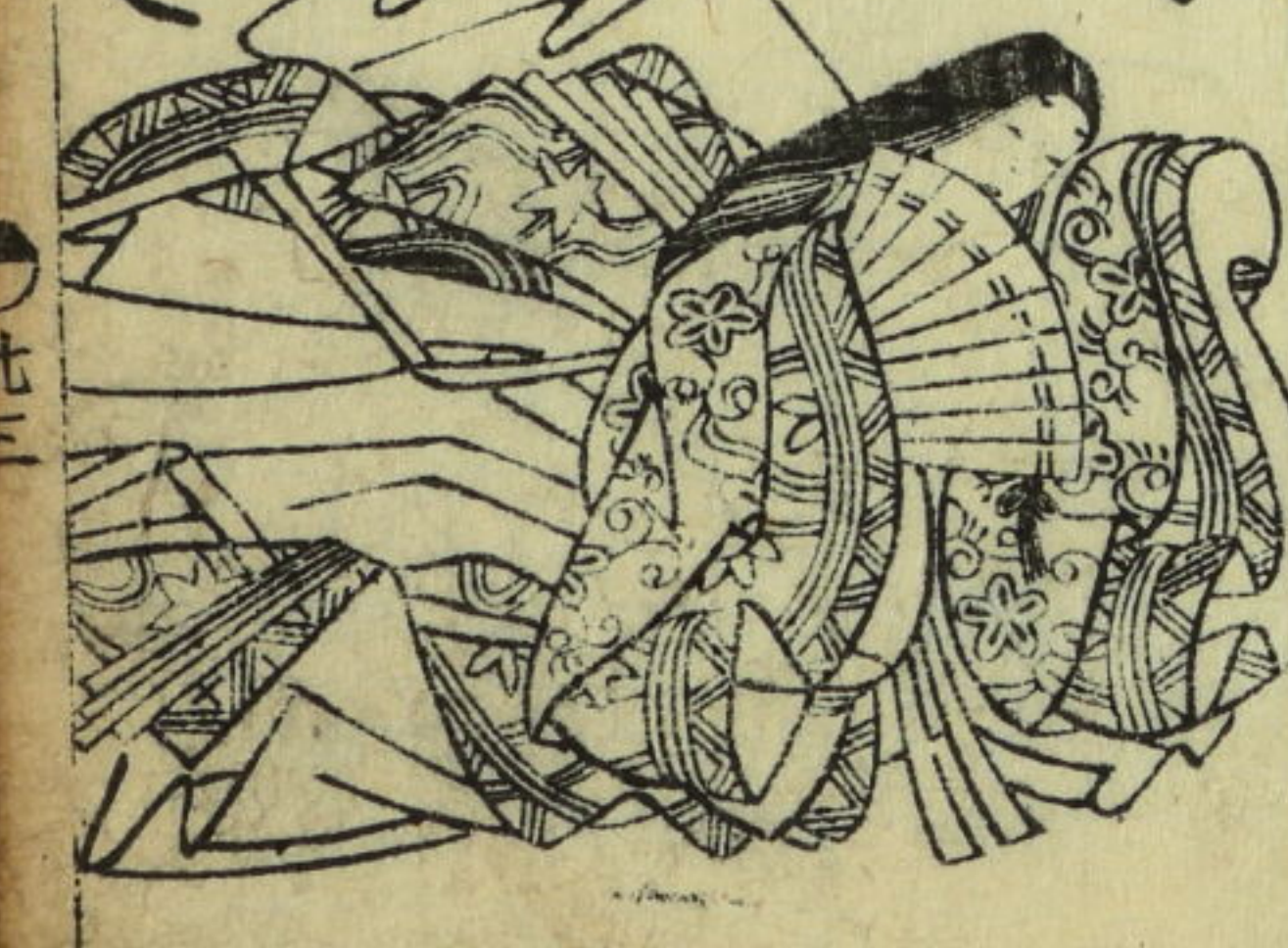
赤深魚

屋す
 福ま
 けりて
 か



小式部内侍

あ
 ち
 と
 ま
 何



○あまのき

さ
 名
 中
 知
 一
 此
 今
 あ
 此
 ま
 下
 二

この國の人は、もとより
とて、おどろき、とて、おどろき



情
守れが西ととかなる

多しと、このまは、おどろき、
く、く、く、く、く、く、く、く、
し、し、し、し、し、し、し、し、
か、か、か、か、か、か、か、か、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
き、き、き、き、き、き、き、き、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
う、う、う、う、う、う、う、う、
り、り、り、り、り、り、り、り、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

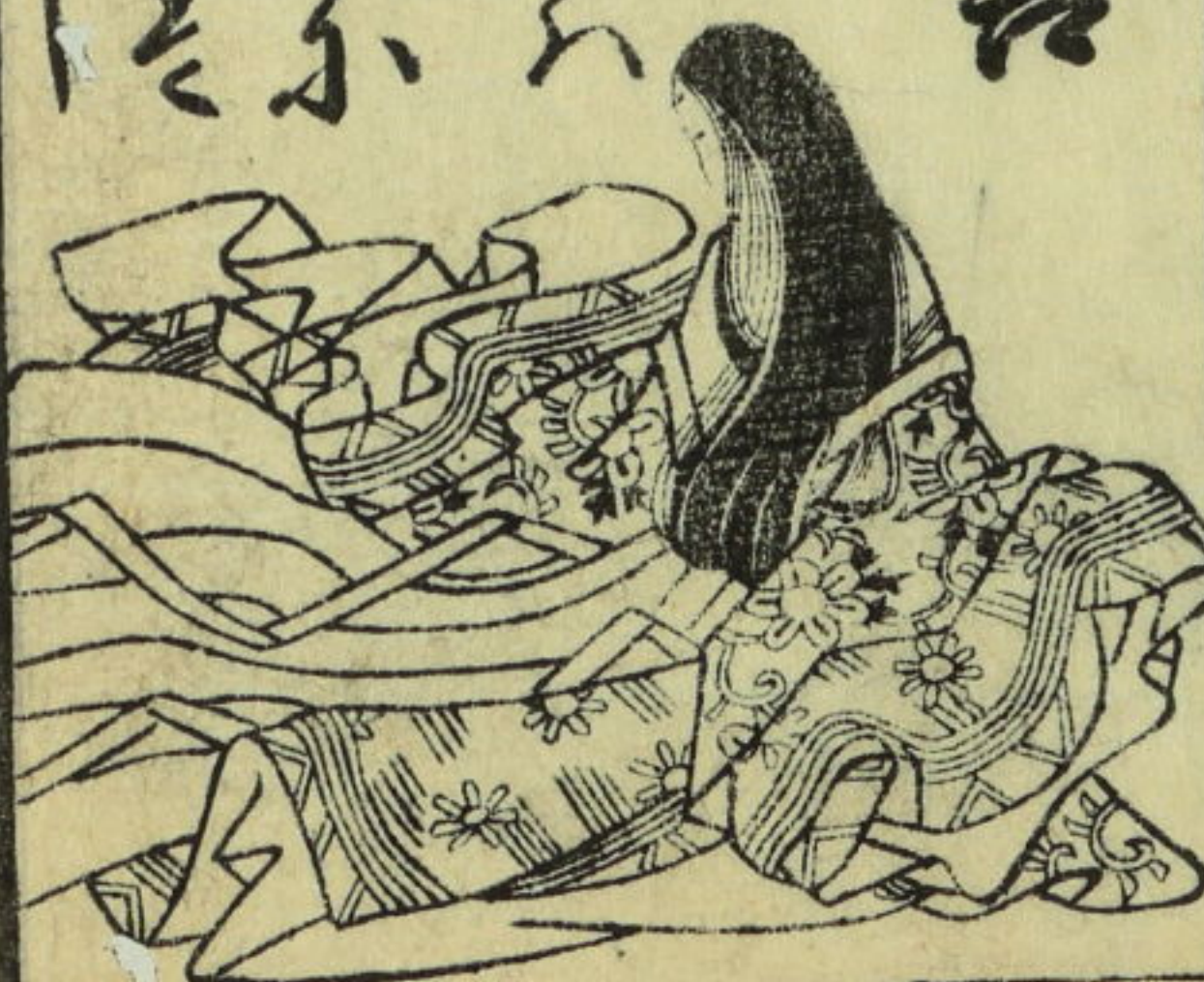
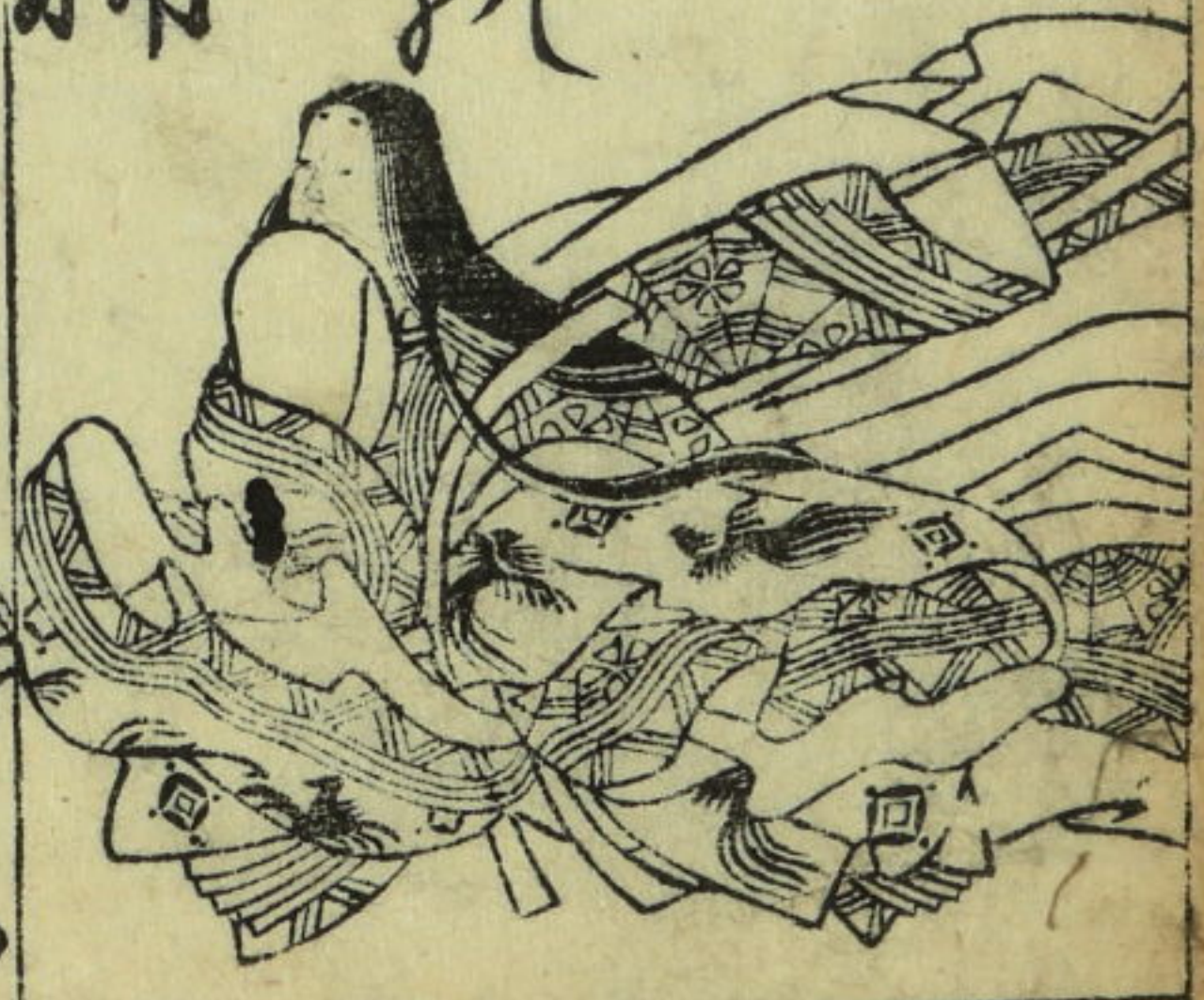
この國の人は、もとより
とて、おどろき、とて、おどろき
く、く、く、く、く、く、く、く、
し、し、し、し、し、し、し、し、
か、か、か、か、か、か、か、か、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
き、き、き、き、き、き、き、き、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
う、う、う、う、う、う、う、う、
り、り、り、り、り、り、り、り、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

白いゆきか
か、か、か、か、か、か、か、か、
い、い、い、い、い、い、い、い、
こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、
の、の、の、の、の、の、の、の、

伊勢八補

清少納言

夜をこめて
か、か、か、か、か、か、か、か、
わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、
い、い、い、い、い、い、い、い、



なまはま道雅

今、か、か、か、か、か、か、か、か、
こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、
い、い、い、い、い、い、い、い、
ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、



橙中納言定頼

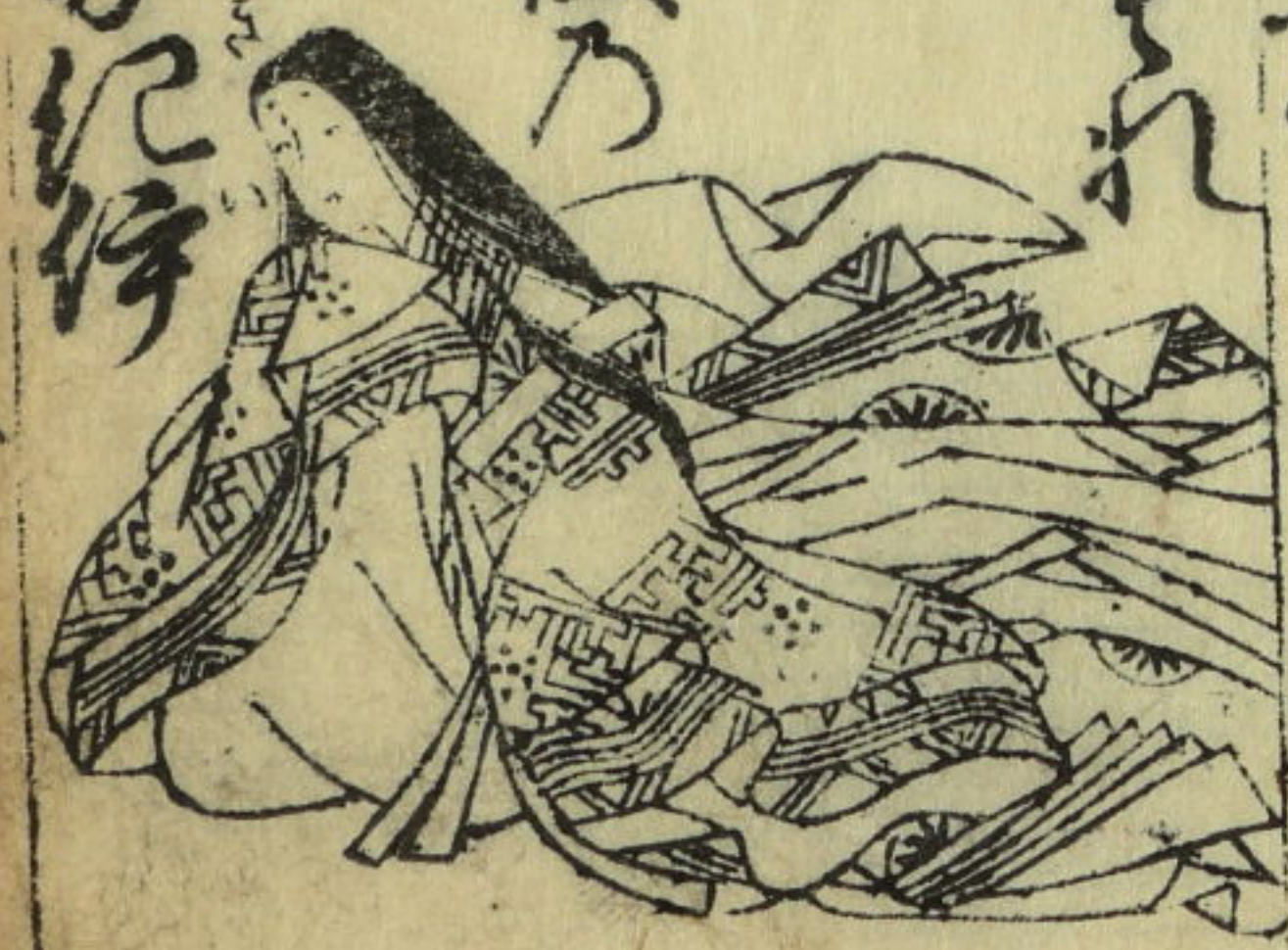
わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、
の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、



本	五	性	名	の	字
木	性	名	の	字	性
竹	性	名	の	字	性
竹	性	名	の	字	性
竹	性	名	の	字	性
竹	性	名	の	字	性
竹	性	名	の	字	性
竹	性	名	の	字	性
竹	性	名	の	字	性
竹	性	名	の	字	性
竹	性	名	の	字	性



大納言経信
 いまむ
 何れ乃中
 かあわらし
 わささ
 青にまき
 宿子内親王家記行



良暹法師
 わささ
 秋のゆふ



由月	表	元	市	松	水	里	第
初	次	十	十	性	常	文	文
清	翠	他	若	子	沖	雷	雷
扇	新	精	石	種	雲	雲	雲
冥	振	七	流	杖	雲	雲	雲
去	村	三	小	光	雲	雲	雲
文	谷	小	光	雲	雲	雲	雲

右のうらみそを性におき
て付て—あひの他人
権おの乗わ—いふ者
ハゆあつてけり名をい
ああら性にくる—
—のねに—てはく
へきあり

○尼の名づ—
妙色 妙智 妙玄 妙心
圓香 妙日 清玄 妙香
須木 妙善 妙好 妙林
妙了 永歩 永安 妙玄
法玄 法古 妙全 眞任
知賢 榮心 妙法 里香

○男女お姓—
本姓と火性を—
本生火と—
本姓と—
金村本と—
てかり—
吉守見おしお射の
うんゆかり—
お—
○三十六奇仙園

茶中細言匠房
高妙者
おの乃人
はく—
とまの—
おの乃人

源佐朝
うかりある人
らを乃
ふせり—
おの乃人

藤息基俊
疾をに—
おの乃人

久々乃のあよ
おの乃人



海印 舟に
志願 舟に
舟のくま
左 狝人丸



九河内 躬姫
妻の
みり



中絶 野に
妻此 野に
あつ
つ 野に
押の 野に
人 野に



右 紀貫之

あつ
あつ
あつ



三輪の山
あつ
あつ
あつ



あつ
あつ
あつ



崇徳院

崇徳院
源義昌
淡路



淡路
あつ
あつ
あつ



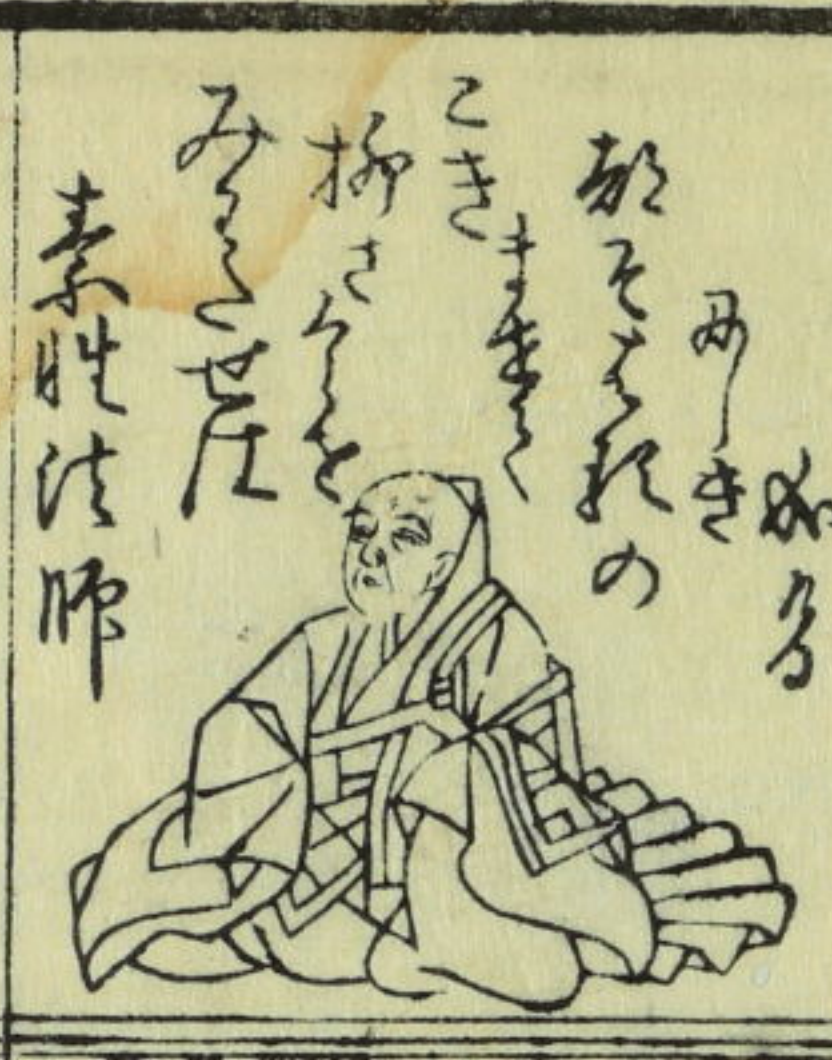
左 東三郎

東三郎
あつ
あつ
あつ



あつ
あつ
あつ

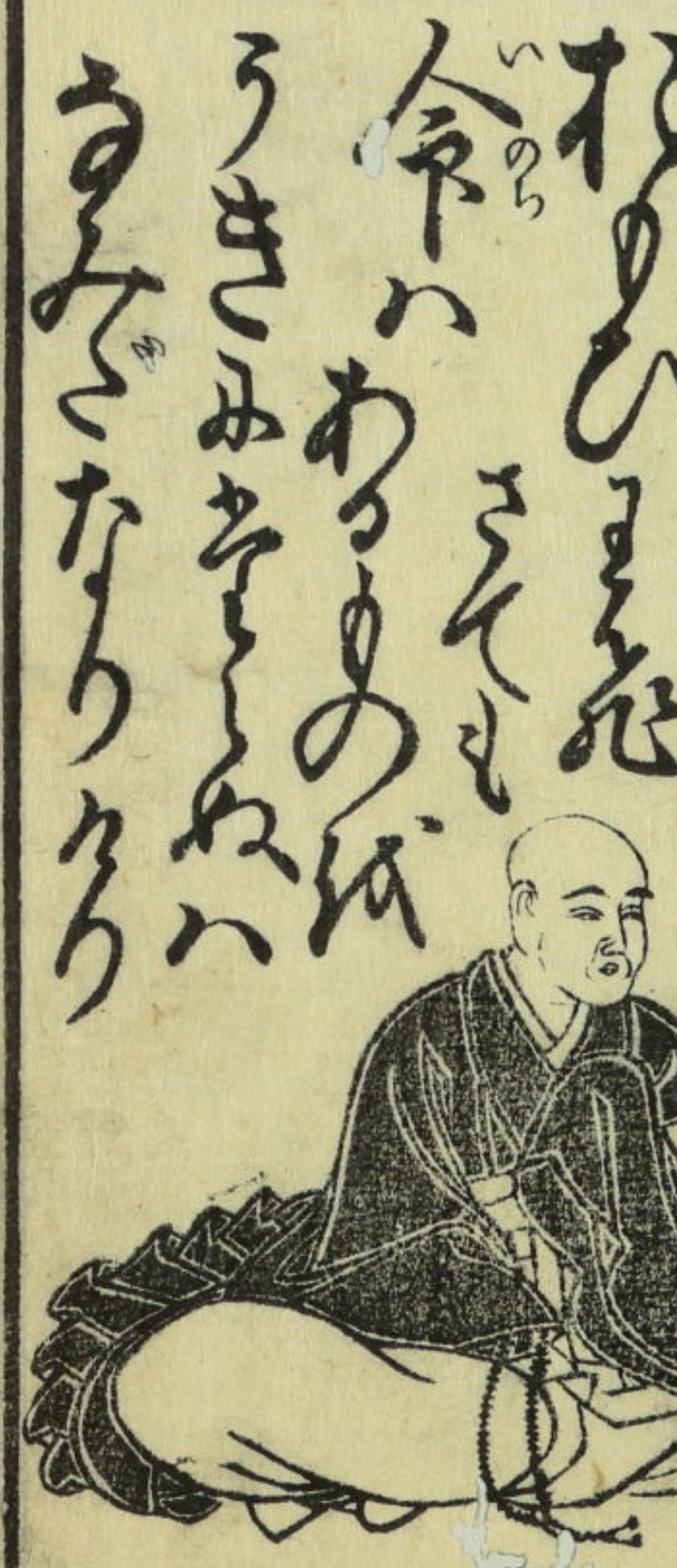




後徳大寺なるは



道因法師



皇太后定春後成



藤原清通初居



少中納言 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



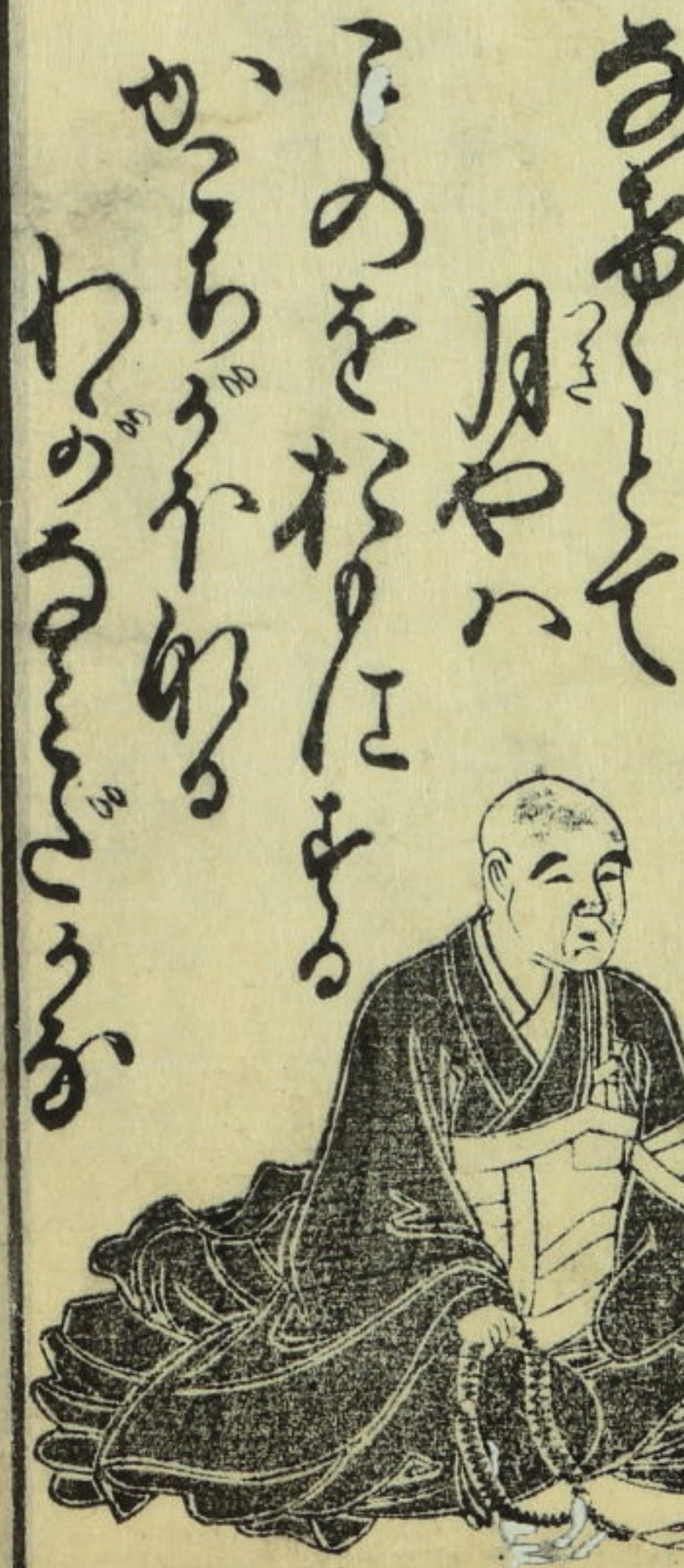
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



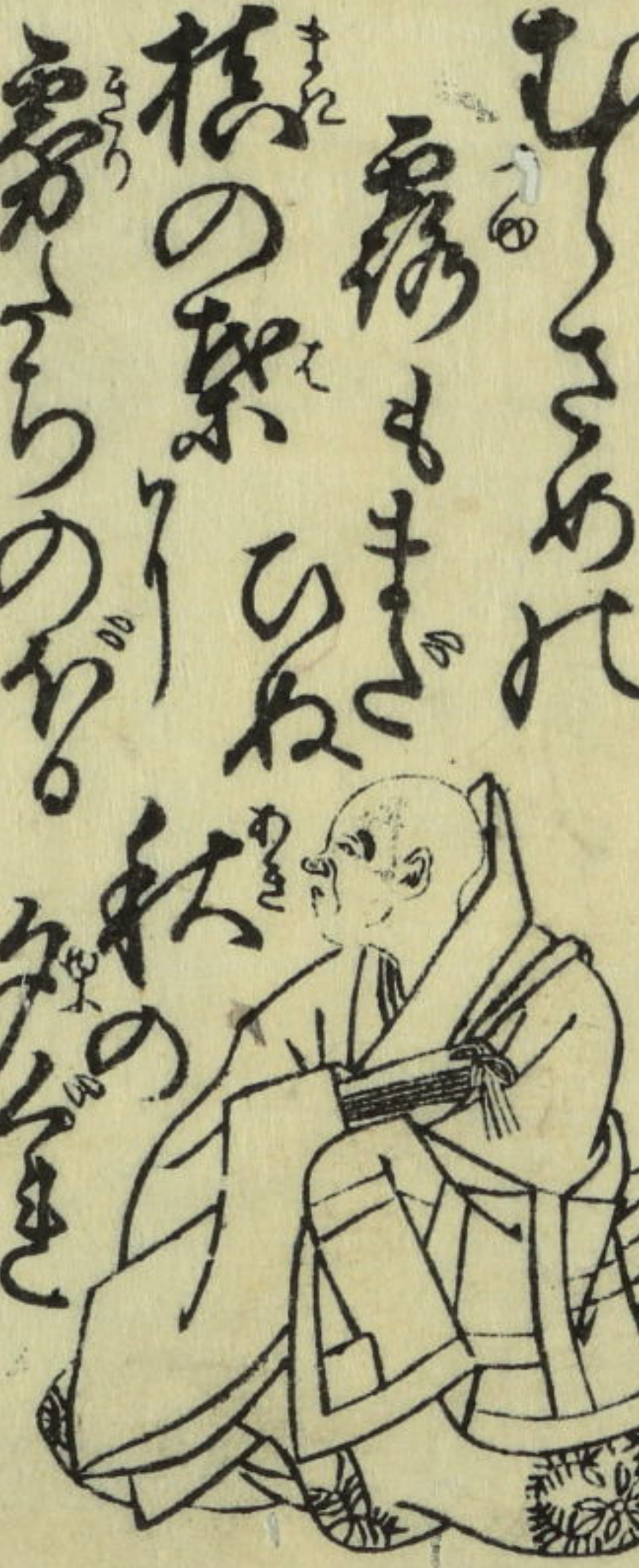
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



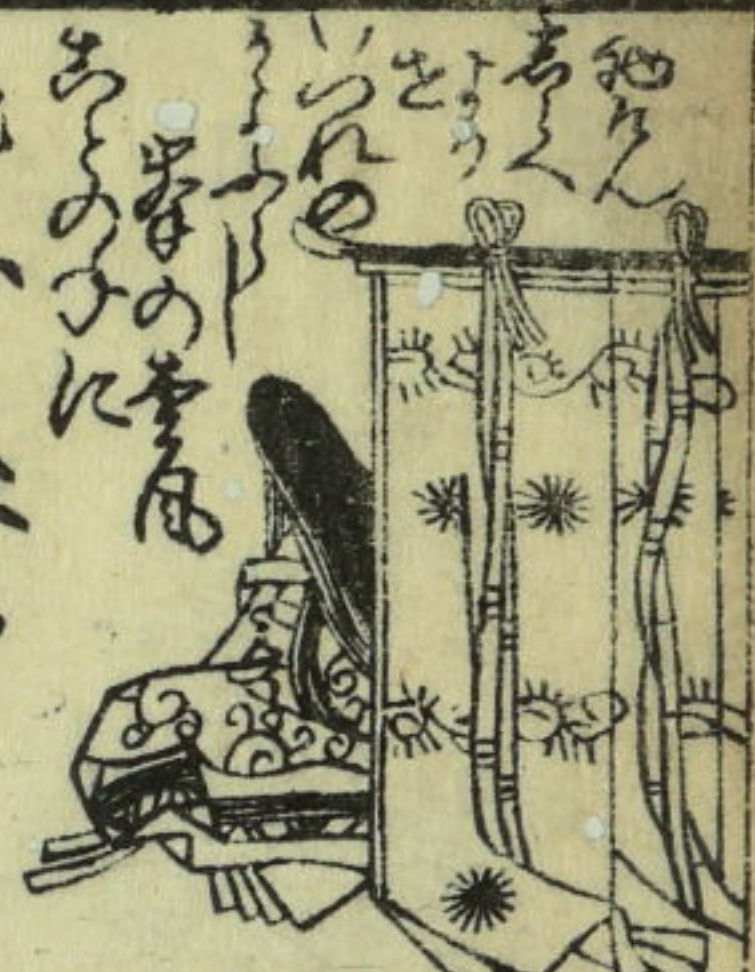
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光
兼光の妻 兼光



源宗子於長
たすか女侍



源宗子於長



源宗子於長



源宗子於長



源宗子於長



源宗子於長



式子門親王

玉の結よき

あつね

あつね

あつね

あつね



殷富院大輔

又藤をわさ

わまは

ぬまは

ぬまは

ぬまは



後市橋親政

あつね

あつね

あつね

あつね

あつね



二條院後深

あつね

あつね

あつね

あつね

あつね

かきつるる魚丸
たしつて丹々
あつての
てはつて
た若原清正



藤原具房
藤原具房
藤原具房



坂と光則
坂と光則
坂と光則



若原明
若原明
若原明



秋のれ
秋のれ
秋のれ



若原元吉
若原元吉
若原元吉



彌倉右大臣
世中つひ
おとあ
わまよとつひ乃
はまてうり
あ



若原儀雅
みよ
風はよ
あ
あ
あ



前大僧正慈圓
あ
あ
あ
あ
あ



入道前大政大臣
あ
あ
あ
あ
あ





かのつゝ
ゆる体
あつたし
よるけ
いふけ
た



あ代やえん
あつたて
あつた
あつた
あつた



我れあひの
あつた
あつた
あつた
あつた



右名原仲文
あつたの月
あつた
あつた
あつた



生忠見
あつた
あつた
あつた
あつた



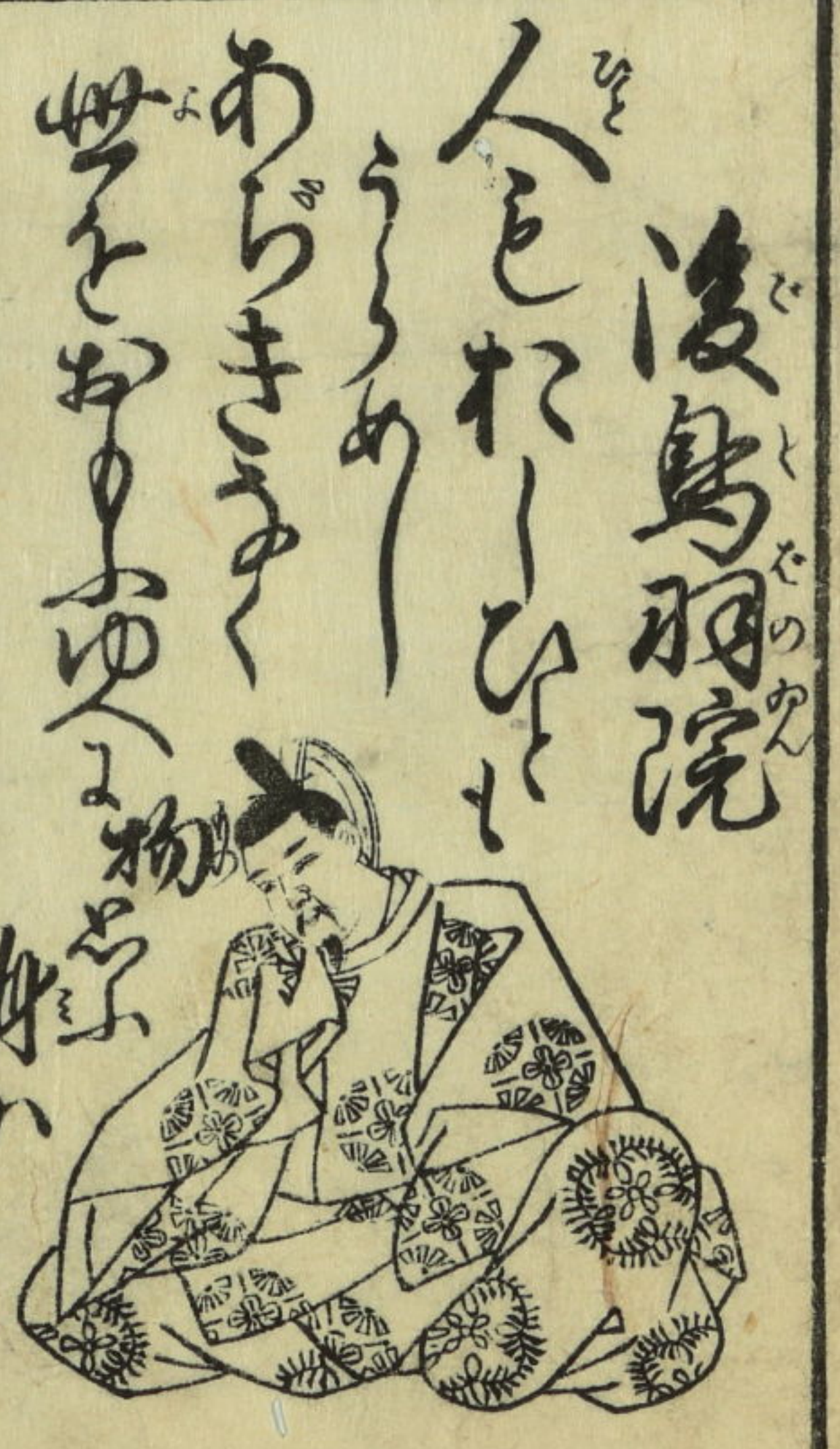
中務
あつた
あつた
あつた
あつた



権中納言定家
あね人を
あつた
あつた
あつた



正三位家隆
あつた
あつた
あつた
あつた



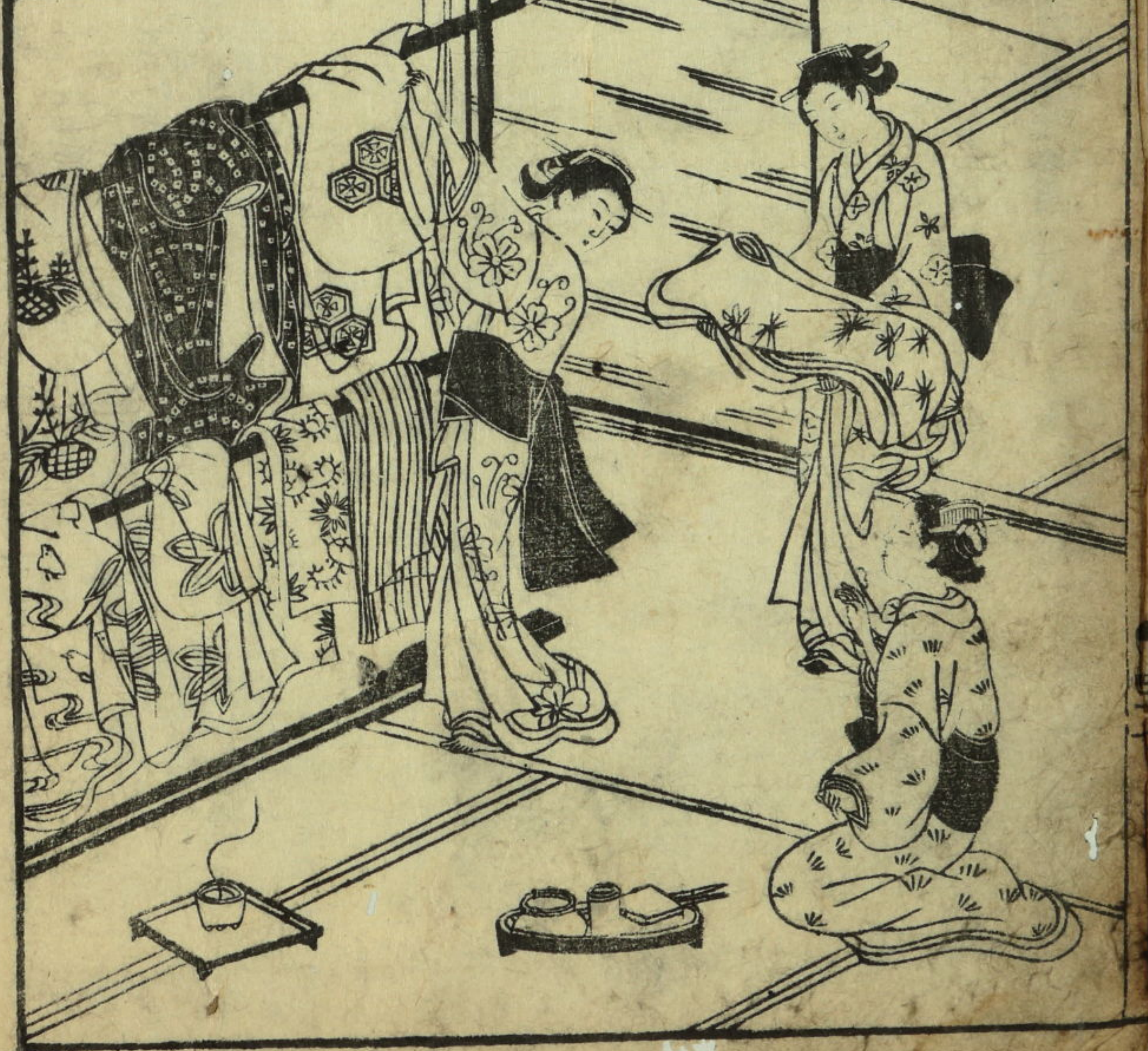
後鳥羽院
あつた
あつた
あつた
あつた



順徳院
あつた
あつた
あつた
あつた



衣物の好む其色を
去旺は五つふむらふ時
乃を牙一にむらり春
公青色は小袖を上げの牙一
の夏余赤を牙一にむらり
を牙一ふむらふを牙一にむらり
牙一にむらり掛す小袖と
その上の服小下は服ふ
二つにむらり其時乃第二
かかるともむらり
の青赤黄の黒皮の赤黄白
黒赤秋の白黒青赤黄を
の黒赤黄白とその時
はむらりむらり
かかるともむらり



<p>明和八歳 辛卯 正月 穀旦 天保二歳 辛卯 正月 再板</p> <p>書林 東都本町筋通油町 鶴屋喜右衛門版</p>	<p>画生 北尾重政模</p>	<p>知死期操様 上十月一日二月九月十日 九時六時八時四時五時 五時六時七時八時七時 中十月一日百九月十日ハ 八五三三四五ハ七々中 六七八八九々六 下十月一日二月九月十日ハ 七々四三三四五八九々々 六七八八九々ハ</p>	<p>不成 正月 二日 三日 四日 五日 六日 七日 八日 九日 十日 十一日 十二日 十三日 十四日 十五日 十六日 十七日 十八日 十九日 二十日 二十一日 二十二日 二十三日 二十四日 二十五日 二十六日 二十七日 二十八日 二十九日 三十日</p>	<p>成 正月 二日 三日 四日 五日 六日 七日 八日 九日 十日 十一日 十二日 十三日 十四日 十五日 十六日 十七日 十八日 十九日 二十日 二十一日 二十二日 二十三日 二十四日 二十五日 二十六日 二十七日 二十八日 二十九日 三十日</p>
---	---------------------	--	--	---

